

提言
1 ・外国籍市民等に対する差別や偏見のないまちづくりを進めるため、日本人が外国籍市民等と自らとの違いや外国籍市民等の暮らしの背景について、理解を深められる取組を充実させること

主旨	内容
意識啓発	人間は優越感を持ちたいため、自分より弱い人を傷つける。 目に見えない差別 はまだまだたくさんある。
	外国の人に対する差別の背景には、 文化の違いや社会的な背景、歴史を含めて、理解が十分でない ことが原因である。
	在日外国人の方がなぜ日本におられるのか、その 背景を知る ことが大事。私たちが当たり前にも思っていることと全然違う意味があることが分かる。その違いに気づくことが大切である。
	外国人を支援していると、 言葉の壁、心の壁、制度の壁、文化の壁の4つの壁 があり、それぞれが関連していることが分かる。
	ニューカマーの方々について理解するためには、 お互いの社会文化、生活習慣、価値観などの共通点と相違点を具体的に知る ことが大事である。
	違いに気づく ことができれば、いろいろな考え方ややり方があると気づくことができ、外国人に対して身構えることがなくなっていく。
	違いを理解するとともに、 同じ人間だ ということを理解することが必要。
	自分で問題の本質を考える ことが、外国に文化的背景を持つ方々に対する理解にもつながる。
	言葉や文化などの「 違いがある 」ことは、とても「 楽しいこと 」で、そのような違いを持った人たちと共に生きることは刺激的でわくわくすることだということを、私たちは意識すべき。
	日本は、環境教育や人権教育など、小学校や中学校でシステム化されて進んでいるが、 社会教育の取組 が十分ではない。そのため、例えば図書館などを活用して取組すれば良い。
	教育というと学校教育を思うが、社会教育も含めて考えていかないといけない。
	多文化教育には 人権教育 の側面をしっかりとやらなくてはならない。
	日本人でも外国人との違いについて理解を深める必要があり、もっと教育に力を入れていく必要がある。
意識啓発を効果的に行うためには、 情報の発信を工夫 する必要がある。たとえば動物園など、より人が多く集まる場所で周知するなど、発信場所も工夫することが大切である。	
外国人が日本語を話すと「なぜそんなに日本語がうまいのか」と聞かれるが、そのような質問は外国人にとってストレスになることが多い。また、「外国人には着物は似合わない」と悪気なく言ってしまった日本人もいた。 外国人に対しての偏見をなくすためにはメディアの活用が必要 だと思う。	